

平成30年7月豪雨災害被災地へ寄付金を届けました

皆さんからお預かりした寄付金を 直接被災地へ届けました

平成30年7月豪雨で被災された皆さんを支援するため、市独自で7月11日より寄付金の受け付けを行い、市役所福祉総務課窓口へ募金箱の設置や街頭募金を行うなど、市民や各種団体の皆さんからの寄付金を募っていました。

その結果、10月29日現在で122万3136円もの寄付金が集まりました。その寄付金を11月1日、2日の2日間にわたり、市長が直接各市に届けました。

【訪問先】

岡山県（総社市 倉敷市）

広島県（広島市 呉市）

【問】秘書広報課、福祉総務課(福祉係)

被災者から直接聞いた被害の状況とは



訪問先でたくさんの方に災害時の様子について教えていただきました。

例えば、ある日突然

工場が爆発し、近くの約100棟の家屋が爆風の影響で全壊。

断水で、水道が1カ月使えない。

コンビニやスーパーに行ってもほとんど何も売っていない。

大雨の影響で停電が発生。携帯電話の充電ができず、誰とも連絡が取れない。

というような状況が実際に発生しています。

災害はいつ起こるかわかりません。皆さん一人ひとりのできることから備えることが一番大切です。食料や飲料水の備蓄など日頃の備えの確認や、自助共助・地域のつながりを大切にしましょう。



被災地で 実際に聞いた声

水害の影響で停電が発生し、携帯電話の充電がなくなったのが困った。停電しても携帯電話が充電できるように充電用のバッテリーを持つなど、備えるなどが大切。

救助などに向かうときに、安全靴じゃないとダメなど知らなかった。

災害を身近に感じてもらい、備えてもらうことが重要。

断水したときにプールの水を開放するなどの対策を取ったが、高齢者は運ぶのが大変だった。この時には民生委員など地域の皆さんが協力しあって助け合いを行った。

地域のつながりが強いと、減災につながると同時に復興への取り組みが早いと感じている。

先人から積み上げた地域での一体感が減災につながった。地域の運動会も30年以上の歴史があるなど、チームワークを大切にしている。

◀地域の集会所にて

皆さんの表情は明るく「2年間仮設住宅で住むことになるが、みんな帰るまで力あわせて頑張りたい」と話してくれました。

